

北海道議会議員  
安住たかのぶ  
活動報告

# アズミライ

azumirai  
magazine

# 04

produced by Azumi Takanobu office

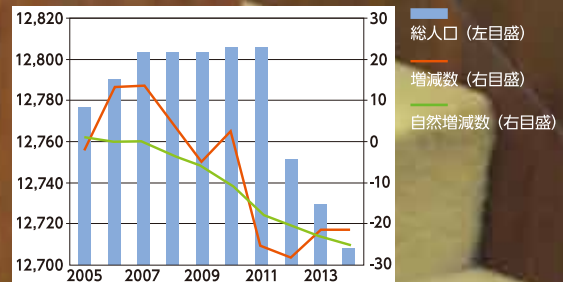
## 2年目がスタート!

待ちに待った春がやってまいりました!

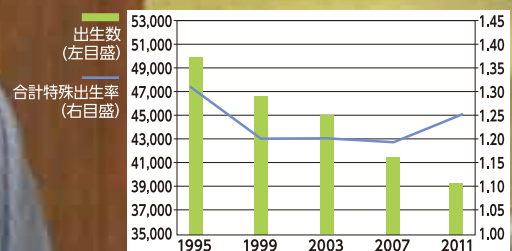
皆さまのご支援で道議会におくっていただき、議員として再出発ができた昨年。4月30日で丸一年となります。

今号では第1回定例会(2月末～3月末)のあらましと安住の一般質問概要、また、この一年の取組みの中から「若者が故郷旭川にしっかりと根づくための活動」について、その意図と具体的内容をお伝えしてまいります。

日本の総人口と増減数の推移 (万人)



北海道の出生数(人)と出生率の推移



## ズバリ、安住の意図!

北海道の何が今問題なのか?

若者と子どもの数が激減する?!

若者が根づく「まちづくり」は待ったなし!

亡くなる方と生まれる赤ちゃんの数の差(自然増減)に外国との出入りの差(社会増減)を加えた結果の総人口。日本の総人口が2011年以降、ずっと減少し続けているのはご承知の通りです。実は北海道では、1998年から既に減少が始まっています。

高齢社会ですから、亡くなる方が増えるのは、一方でそれが「健康長寿社会」である限り、仕方ありません。

問題は、出生率(※1)が東京、京都に次いで低く、そもそも赤ちゃんが減り続けてきたこと。(道外への)転出超過が全国一多い(※2)こと。結果的に子どもを生む割合の高い年代の女性人口が急速に減ってきていること、の3つです。

※1. 合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの数を表す指標)

※2. 約9千人(8,942人)の転出超過(2014年実績)

国勢調査結果によると本市では、2005年の調査時点で15～19歳だった方が、5年後に3,300人余り減っています。問題は、進学や就職が主な理由と思われるその3千人超の若者(その年代層全体の約2割相当)の多くが、出て行ったきり戻っていないという事実です。

国によると、近年、晩婚化の影響もあり、出産年齢のボリュームゾーンは30～34歳層に移りました。それでも依然、25～34歳層が、子どもを産む女性全体の6割超を占める構造は変わりません。

つまり、分母が減った上に、最も子どもを生む割合の高い年齢層が流出し戻ってこない…これらの事実から懸念されるのが、今後、旭川も含め全道で若者と子どもの数が激減する事態(※3)です。

※3. 同様の見通しが「地方消滅(増田寛也編著)」にも示されています。

若者と子どもの激減は一体何をもたらすでしょうか?

ひとつは、経済規模の縮小です。「お客様」の数が減る以上、手を打たなければ当然、経営は厳しくなる…「お金が掛かる」子どもが減ることは、経済の規模に加え、その成長の速度まで落とす懸念に繋がります。それは、まわり回って、皆さんのお給料や年金の受取額にも跳ね返ってくる…

それだけではありません。若者の減少、イコール労働力の減少です。特に、介護のような仕事をはじめ体力がある仕事の担い手が益々なくなり、老々介護に拍車がかかる事態も懸念されます。

若者や子どもの減少は、年配の方々は無難、皆さまの暮らしと実は密接に関連し、放っておくと社会全体が立ち行かなくなる、「待ったなし!」の深刻な問題なのです。

それでは次ページで解決の糸口を



# 若者と笑顔あふれる北海道・旭川へ では、どうするのか？

「保育所の定員増を図るなど、子どもを生み育てやすい仕組みを整える」「若者が希望を持って地元に着定できる雇用の場を創る」といった対策が、先ず必要なことは言うまでもありません。同時に安住は、「人づくりこそ、まちづくり」と考えます。

まちの隠れた魅力を磨き上げ、発信もできる地元人材の「学び合いと活躍の場づくり」を通じ、若者を呼び戻し、さらに若者が根づくことのできる旭川を創り上げる。そんな想いを胸に走り回ってきた活動の一端をお伝えします。

## ●安住と一緒に考える会●

旭川の未来図を語り合う。批判や批評ではなく、自らが前向きに考え行動する。協働作業を通じ具体的に旭川を元気にするための参加型の集い。

昨年4月、「若者たちよ集まれ！～旭川の未来を安住と一緒に考えよう～」との呼びかけに、「気持ち若者」の方を含む(笑)30名を超える皆さんが参加して下さいました！

本年4月の第4回例会では、この一年の成果を踏まえ「旭川の新しいイベントを考える～行動編～」と題し、コンペ方式のイベント企画発表会を実施。参加チーム中、最多得票となったチームのプラン具現化に向けた取組みが、現在進行形で進んでいます。



## ●旭川パイオニアの会●

「食」「農」「観光」～旭川と本道経済底上げに欠かせない最重要分野。その柱を担う若手の飲食、農業、観光関連事業者との定期学習懇談会です。

第1回は昨年6月、会員がオーナーシェフの旭川郊外飲食店にて。以降、会員農家レストランでの試食会や、生産現場、観光施設等の現地視察会、道庁幹部との意見交換会などを通年で実施。この6月には道の上川農業改良普及センターから専門家を招き、より、現場の課題に添った対策推進に向け、勉強、意見交換会を開催、秋には道外先進地視察も行う予定です。

また、彼らの作る「知られざる名産品」の数々を、東京銀座で発信する首都圏向け食事会の準備も、現在、着々と進めています。



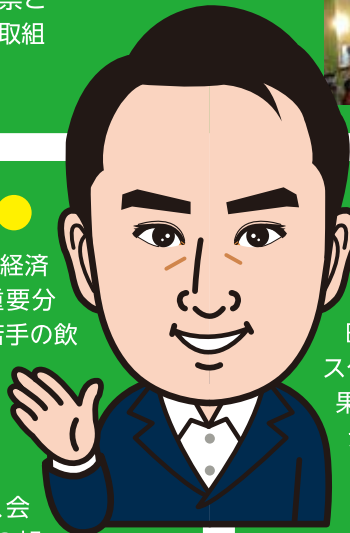
## ●志知人会(しちにんかい)●

旭川を元気にするため、自らも楽しく、かつ、汗かくことをいとわない。

昨年5月、有志の若手経済人ら7人でスタート。「どうすれば地元活性化を果たせるのか」「今、何をやるべきか」議論を重ねつつ、本年4月の第9回例会では東京秋葉原視察を実施。旭川の魅力を海外にまで強く発信していく方策につき、体感

できる貴重な機会となりました。

さらに、本会活動を通じたご縁で、実はまだ旭川の方にもあまり知られていないローカルキャラ、最上 奏音(もがみ かなね)(通称モカ。旭川四条駅界隈にて、旭川の情報や魅力発信活動を通じ、まちの活性化に取り組んでいる、という設定の架空のキャラクター)による新たな地元PRプロジェクトが今、進みつつあります。





## 平成28年 第1回定例会



### 平成28年度予算案が可決

第1回定例道議会が2月26日(金)に開会。合計6千3百億円弱の特別会計分を含む、総額3兆4千500億円余りの平成28年度各会計予算案(※)、ならびに、同予算案に関連する議案と単独議案の計124件の議案、計9件の報告案件が知事から提案されました。

一部議案に対し、民主党・道民連合、日本共産党の各会派から、例えば、一般会計予算案について組み換え動議が提出されるなど反対があったものの、両会派を除く賛成多数で、原案通り可決されるとともに、7件の意見書・決議案を採択し、3月24日(木)に閉会となりました。

なお、平成28年度予算案の審議に先立って行われた2月26日の本会議では、北海道公安委員会委員の選任に対し、日本共産党会派からの反対があったものの、同会派を除く賛成多数で原案通り可決。

また、平成27年度一般会計補正予算案に対しては、民主党・道民連合、日本共産党の各会派から反対があったものの、両会派を除く賛成多数で、原案通り可決となっています。

※平成28年度歳入歳出予算

一般会計	2,824,657,420千円	(2定現計比 0.8%増)
特別会計	628,385,984千円	( // 4.0%減)
合計	3,453,043,404千円	( // 2.7%増)

※( )内の増減は、知事選の結果を受け政策予算が盛り込まれた、昨年第2回定例会補正後の予算と対比しています。

### 採択された決議・意見書は7件

それぞれ、政策審議会または委員会から発議された6件の意見書案ならびに1件の決議案が、全会一致で、いずれも採択となりました。

- ・ 朝鮮民主主義人民共和国の核実験及びミサイル発射に抗議する決議
- ・ 朝鮮民主主義人民共和国による日本人拉致問題の完全解決を求める意見書
- ・ 「北海道観光振興特別措置法」の早期制定を求める意見書
- ・ 一般貸切旅客自動車運送事業等の安全確保の徹底を求める意見書
- ・ ヘイトスピーチ等への対策を求める意見書
- ・ 医療等に係る消費税問題の抜本的解決を求める意見書
- ・ 子ども・子育て支援新制度に対する意見書

### 会派所属議員による質疑・質問

「北海道結志会」の代表質問には大河昭彦政策審議会議長(滝川市)が立ち、本道の経済対策やTPP対策、地方創生などについて知事の考えを質すとともに、教育問題、警察行政について、それぞれ、教育長、警察本部長に質問しました。

また、一般質問については赤根広介議員(登別市)と安住が、予算特別委員会には、滝口信喜議員(室蘭市)、池本柳次議員(十勝地域)、佐藤伸弥議員(網走市)、白川祥二議員(空知地域)、浅野貴博議員(留萌地域)の5名が入り、それぞれ当面する道政課題、地域課題について道の取組みを質しました。

### 空港民営化問題への取組み

予算特別委員会の知事に対する総括質疑で滝口委員(会派顧問・室蘭市)から、1.環太平洋連携協定(TPP)、2.環境基本計画、3.がん対策の推進、4.道州制等、5.空港民営化の以上5項目にわたる質疑が行われました。

いずれも本道が直面する喫緊の課題ばかりですが、中でも空港民営化については、低迷を続ける本道経済の今後を展望する上で欠くことのできない「戦略」の一端を担うもの、という点で、中長期的には最も重要なテーマのひとつです。

ご案内の通り、菅(すが)官房長官の肝いりで動き出したこの問題。私たちの旭川空港も例外ではなく、(国や道管理ではない)市管理の空港ながら、民営化対象空港の1つとして入っています。

その旭川にとっての意味合いということでは、例えば、民営化を通じたLCC就航の実現や新規路線の開拓、また、発着枠の拡大により、現状、溢れ返る千歳からの便振り替えの受け皿になり得る等、地域にとっての「利便性向上」と「集客効果の増」などが、旭川や上川、道北圏におけるメリットとして考えられる訳です。

現在、私どもの会派「北海道結志会」としては、この問題を考えるにあたりプロジェクトチームを設置。安住もその事務局次長を拝命し、民営化で先行する関西地区(伊丹空港、関西空港、神戸空港)での課題調査、女満別空港を抱える網走市、大空町地元行政機関との意見交換会やシンポジウムへの出席など、関連する案件の調査や本年秋に予定している会派としての提案の取りまとめに向け、奔走しています。

# 一般質問

第1回定例会では、昨年第2回定例会に次いで2度目の、知事と教育長に対する一般質問(本会議)で登壇いたしました。



## 質問の概要

### 1. 視覚障がい者等の交通安全対策について

昨年10月、徳島市で視覚障がい者の男性と盲導犬が、バックしてきたダンプにはねられ死亡するという事故が発生。警察庁の調べでは、同様の事故は全国各地で起きており本道も例外ではないはず。

国交省では、再発防止策として、後退を知らせる警報音装置等の大型車への義務付けなどを検討しているが、装置そのものが切られた結果起こったのが問題の事故。一方、静音性の高いハイブリッド車等の急速な普及に伴い、車の接近に気付かず、結果、特にお年寄りや子どもが予期せぬ事故に巻き込まれる恐れもまた強くなっている。

そこで、まずはトラック協会等関係諸団体に、改めて強く、歩行者の安全性確保に向けた理解と協力を呼び掛けるとともに、車の利用にあたり、走行時や後退時の安全性確保のための装置装着と発音を、国の動きを待たず義務化する条例の制定が必要ではないか。地域が抱える課題と、国が考えている動きとの間に時差や隙間があるのであれば、そこを埋めるべく行動するのが我々の責務と考えている。

### 2. アスベスト対策について

一昨年の6月に行われた国の「石綿障害予防規則」改正により、「レベル2建材」と呼ばれる石綿含有の保温材や耐火被覆材、断熱材についても、新たに、規制の対象となった。アスベストは細かい繊維状の鉱物で、その飛散が目につき辛いにも関わらず、長時間、アスベストが飛散する空気さらされると肺がん罹患に繋がる可能性が高まるなど、危険で慎重な取扱いが必要とされる物質である。

その一昨年改正を受け北海道結志会としては、昨年11月以降、数度にわたり、安住自身も質問に立つなど、道の対応に係る課題を指摘。また、早期の対策を関係各所に求めてきた。結果、私どもの指摘、要請を受け、道の「アスベスト対策ハンドブック」改訂や、建設部による緊急調査が昨年内に実

施されるなど、その迅速な対応には敬意を表したい。

一方で、学校や社会教育施設など、子どもを含む多数の方が、長時間、日常的に使用する施設については特に、道としての管理と調査、対応の行方を多くの方が高い関心を持って見守っている。速やかな全件調査と、結果の適切かつ分かりやすい公表が必要ではないか。

また、改正に係る、道から民間施設所有者への通知が、その後、十分に為されているとは言い難い状況も確認される中、今後、その対策が本格化するにあたり、必要な情報の提供や対策のための財源確保に向けた取組みなどが必要と考えている。

### 3. 水環境の保全対策について

本道をはじめ我が国が、人口減少問題への対応に頭を悩ませている一方、広く世界では、人口の爆発的な増加に多くの国が頭を悩ませている。問題はその増加を、もはや地球環境が支えきれないのではとされていることであり、眼前の危機として大きく3つ、エネルギー資源、食料、水資源の枯渇が、今、世界的な課題のひとつとなっているのは周知の通り。

にも関わらず近年、我が国でも、年間降水量が減少傾向にあることなどが報告されており、日本でも河川が徐々に、春先の灌漑用水需要を賄うに足るだけの流量を、担えなくなってきたのが現実である。

世界人口の爆発的な増加と地球環境そのものの汚染に伴い、水は今かつてないほどにその価値を増している。そうした状況下、これからは、従来とは異なる新たな水処理・水循環システムの構築に官民挙げて立ち向かう必要があるのではないかと。

既に実用化、また現に運用もされているバイオトイレなどの新しいシステム活用を含めた貴重な水資源の保全と利活用のあり方につき、既存のシステムを乗り越えていく覚悟と発想で問題の解決を図るべきと考えている。

詳しくは、  
北海道議会のホームページから、  
実際の質問の様子を  
動画でご覧いただけます。

※北海道議会ホームページ「ホーム」>「議会中継」>「過去の議会中継録画～視聴はこちら」の順にページを開き、「●議員名から選ぶ」を選択しクリック。次に表示される議員名一覧から「安住太伸」の文字をクリックし、表示される画面で右側にある「再生」ボタンをクリックいただくと、動画再生ページが表示されます。

<http://www.hokkaido-pref.stream.jfit.co.jp/>